

寺崎 修教授略歴

略 歴

昭和二〇年	二月二十四日	石川県七尾市に生まれる
昭和三三年	三月	東京都世田谷区立烏山北小学校卒業
昭和三六年	三月	成蹊中学校卒業
昭和三九年	三月	成蹊高等学校卒業
昭和四三年	三月	慶應義塾大学法学部政治学科卒業
昭和四五年	三月	慶應義塾大学大学院法学研究科政治学専攻修士課程修了
昭和五二年	四月	中部女子短期大学専任講師（昭和五三年三月まで）
昭和五三年	四月	駒沢大学法学部専任講師（昭和五七年三月まで）
昭和五七年	四月	駒沢大学法学部助教（昭和六三年三月まで）
昭和六〇年	四月	慶應義塾大学訪問講師（昭和六一年三月まで）
昭和六一年	四月	大妻女子大学非常勤講師（昭和六三年三月まで）
昭和六二年	九月	慶應義塾大学法学部非常勤講師（昭和六三年三月まで）
昭和六二年	九月	法学博士（慶應義塾大学）

昭和六三年 四月
平成 六年 七月
平成 九年 四月
平成 九年 四月
平成 九年 四月
平成 一五年 一月
平成 一五年 二月
平成 二〇年 四月
平成 二〇年 四月
平成 二〇年 四月

駒沢大学法学部教授 (平成九年三月まで)
学校法人武蔵野女子学院理事 (現在に至る)
慶應義塾大学法学部教授 (平成二〇年三月まで)
慶應義塾大学大学院法学研究科委員 (平成二〇年三月まで)
駒沢大学法学部非常勤講師 (平成一一年三月まで)
慶應義塾福沢研究センター副所長 (平成二〇年三月まで)
慶應義塾大学法学部司法研究室所長 (平成一七年一〇月まで)
慶應義塾大学名誉教授 (現在に至る)
慶應義塾福沢研究センター顧問 (現在に至る)
武蔵野大学長 (現在に至る)

学会活動等

平成 四年 四月
平成 四年 一〇月
平成 六年 五月
平成 八年 一〇月
平成 一〇年 二月
平成 一一年 五月
平成 一四年 五月
平成 一六年 二月

法制史学会理事 (平成六年三月まで)
日本政治学会理事 (現在に至る)
日本選挙学会理事 (平成一〇年四月まで)
日本法政学会理事 (現在に至る)
『福沢諭吉書簡集』編集委員 (平成一五年一月まで)
社団法人福沢諭吉協会理事 (平成一四年四月まで)
社団法人福沢諭吉協会常務理事 (現在に至る)
『慶應義塾一五〇年史資料集』編纂委員 (現在に至る)

寺崎 修教授主要業績

【著 書】

(単著)

『明治自由党の研究』上巻・下巻

慶應通信 昭和六二年

『自由民権運動の研究―急進的自由民権家の軌跡―』(慶應義塾大学法学研究会叢書七七)

慶應義塾大学出版会 平成二〇年

(編著)

『福沢諭吉著作集』第七巻

慶應義塾大学出版会 平成一五年

『近代日本の政治』(シリーズ日本の政治 第二巻)

法律文化社 平成一八年

『福沢諭吉の思想と近代化構想』21COE-OCC 叢書第三二〇巻

慶應義塾大学出版会 平成二〇年

(共著)

『基礎政治学』

北樹出版 昭和五四年

『政治学概論』

北樹出版 平成四年

(共編)

『手塚豊著作集』第一巻—第一〇巻

『福沢諭吉書簡集』第一巻—第九巻

『福沢諭吉の手紙』

『戦前日本の政治と市民意識』21COE-CCC 叢書第九巻

慶應通信 昭和五七年—平成六年

岩波書店 平成一三年—一五年

岩波書店 平成一六年

慶應義塾大学出版会 平成一七年

【論文】

「大本営陸軍部の一資料よりみたソ連の対日参戦問題について」

『法学研究』第五一卷第五号 (慶應義塾大学) 昭和五三年

「明治二十年・池島事件の一考察 (一) (二)」

『法学研究』第五三巻第六、七号 (慶應義塾大学) 昭和五五年

「明治十六年・地方巡察使の研究」(利光三津夫、藤田弘道氏と共作)

『法学研究』第五四巻第三号 (慶應義塾大学) 昭和五六年

「自由民権運動史上における児島稔」

『政治学論集』第一四号 (駒沢大学) 昭和五六年

「自由党の解党について」

手塚豊編『近代日本史の新研究』第一巻 (北樹出版) 昭和五六年

「明治十七年・星亨官吏侮辱事件の一考察」

『政治学論集』第一六号 (駒沢大学) 昭和五七年

「静岡の自由民権家・鈴木音高小伝」

手塚豊編『近代日本史の新研究』第二巻 (北樹出版) 昭和五八年

「いわゆる『一般的大動乱』計画について」

『創立一二五年記念論文集』法学政治学関係 昭和五八年

「名古屋事件の殉難志士と出獄者の氏名について」

『東海近代史研究会会報』第二一、二二号 昭和五九年

「自由党の成立 (明治十四年) と自由党地方部」

手塚豊編『近代日本史の新研究』第三巻 (北樹出版) 昭和五九年

「徴兵令と慶應義塾」

笠原英彦・玉井清編『日本政治の構造と展開』（慶應義塾大学出版会）

平成一〇年

「自由民権運動史上における広瀬重雄」

『法学研究』第七三卷第一号（慶應義塾大学）

平成一二年

「福沢諭吉と裁判―明治十五年・売薬営業毀損事件―」

安西敏三他編『福沢諭吉の法思想』（慶應義塾大学出版会）

平成一四年

「第一回衆議院議員選挙と大井憲太郎―その選挙人・被選挙人資格をめぐる―」

日本法政学会編『現代政治学の課題』（成文堂）

平成一八年

「日本政治史研究の現状と課題」

寺崎修編著『近代日本の政治』（法律文化社）

平成一八年

「自由民権運動の展開」

寺崎修編著『近代日本の政治』（法律文化社）

平成一八年

「福沢諭吉の政治構想」

寺崎修編著『福沢諭吉の思想と近代化構想』21COE-CCC 叢書第三〇卷（慶應義塾大学出版会）

平成二〇年

「福沢門下の自由民権運動家―草間時福小伝―」

『近代日本研究』第二四卷（福沢研究センター）

平成二〇年

【資料】

「自由党静岡事件に関する新資料」（手塚豊氏と共作）

『法学研究』第五五卷第二号（慶應義塾大学）

昭和五七年

「自由党静岡事件の新資料二篇」（手塚豊氏と共作）

『法学研究』第五五卷第九号（慶應義塾大学）

昭和五七年

「静岡県山岡昂三家旧蔵資料―拙稿鈴木音高小伝の補訂をかねて―」

『政治学論集』第二〇号（駒沢大学）

昭和五九年

「自由党名古屋事件関係者の獄中行状録」

『東海近代史研究』第六号（東海近代史研究会）

昭和五九年

「自由党役員名簿と同党大会出席者名簿」

『法学論集』第三二号（駒沢大学）

昭和六一年

「加波山事件大審院判決書」

『法学論集』第三七号（駒沢大学）

昭和六三年

「明治憲法発布の大赦令関係資料」

「明治二十五年・選挙干渉事件の新資料」

「高知県自由党沿革」

「政党政社取調書 明治十五年十月調査」

「演説者取調書—明治十五年十月調査—」

「史料機密探偵報告書／福沢派の動静ほか」(都倉武之氏と共作)

『政治学論集』第三四号(駒沢大学) 平成三年

『法学論集』第四九号(駒沢大学) 平成六年

『駒沢大学法学部研究紀要』第五四号(駒沢大学) 平成八年

『政治学論集』第四三三号(駒沢大学) 平成八年

『政治学論集』第四四号(駒沢大学) 平成八年

『福沢論吉年鑑』三一(福沢論吉協会) 平成一六年

【書評】

「井出孫六・我部政男・比屋根照夫・安在邦夫『自由民権機密探偵史料集』(三一書房)」

『法学研究』第五五卷第四号(慶應義塾大学) 昭和五七年

「楠精一郎『明治立憲制と司法官』(慶應通信)」

『法学研究』第二八卷第一号(高崎経済大学) 平成四年

「米原謙『植木枝盛』(中央公論社)」

『日本歴史』第五四七号(吉川弘文館) 平成五年

「大麻唯男伝記研究会編『大麻唯男』(桜田会)」

『法学研究』第七一巻第二号(慶應義塾大学) 平成一〇年

「山田央子『明治政党論史』(創文社)」

『選挙研究』第一七号(日本選挙学会) 平成一四年

「稲田雅洋『自由民権の文化史』(筑摩書房)」

『日本歴史』第六四八号(吉川弘文館) 平成一四年

「安在邦夫・田崎公司『自由民権の再発見』(日本経済評論社)」

『日本歴史』第七二三号(吉川弘文館) 平成二〇年

【研究発表】

「加波山事件の再検討―その処理過程を中心に―」

日本政治学会（於日本大学） 昭和六二年

「自由党の活動と土佐派」

自由民権百年第三回全国集会（於高知女子大学） 昭和六二年

「加波山事件関係者の特赦と名誉回復について」

法制史学会第一三六回東京部会（於政法大学） 昭和六三年

「立志学舎と慶應義塾」

梧陰文庫研究会（於國学院大学） 平成八年

「明治十年代の文部省と慶應義塾―私学冷遇政策の沿革―」

福沢諭吉協会（於交詢社） 平成一一年

「密偵からみた初期交詢社」

交詢社（於交詢社） 平成一八年

「福沢諭吉の近代化構想―天皇・議會・内閣・地方制度を中心に―」

福沢研究センター開設二五年記念講演会（於慶應義塾大学） 平成二〇年

【その他】

「鈴木貫太郎」「憲兵」「戒厳令」「慶應義塾」「小磯国昭」ほか

『万有百科大辞典』第五、六卷（小学館） 昭和四八年、四九年

「日本の安全保障を考える」

『防衛アンテナ』第一六六号（防衛庁） 昭和四九年

「塚原俊郎」「田子一民」ほか

『日本人名大事典現代』（平凡社） 昭和五四年

「犬養毅」

『別冊太陽・慶應義塾百人』（平凡社） 昭和五五年

「英国軍艦レナウン号のこと」

『三田評論』第八〇五号（慶應義塾） 昭和五五年

「日独伊三国防共協定」「日独伊三国同盟」ほか

『日本大百科全書』第一七卷（小学館） 昭和六二年

「自由党の活動と土佐派」

『自由は土佐の山間より』（三省堂） 平成元年

- 「激化民権と裁判記録」 坂野潤治編『歴史の読み方』第七巻（朝日新聞社） 平成元年
- 「植木枝盛自叙伝の信憑性」 『月報』植木枝盛集第四巻（岩波書店） 平成二年
- 「閲覧停止の国立公文書館記録―自由民権運動研究者の一発言―」 『地方史研究』第二三七号（地方史研究協議会） 平成四年
- 「稲垣示」「栗原亮一」「静岡事件」「名古屋事件」「自由党」ほか
- 『日本史大事典』全七巻（平凡社） 平成四年～六年
- 『民情一新』『国会論』『時事小言』を読む会に参加して
- 『小林樟雄』『富松正安』『馬場辰猪』『村野常石衛門』ほか
- 『朝日日本歴史人物事典』（朝日新聞社） 平成六年
- 「立国原理の喪失と官民軋轢」 坂野潤治編『歴史を読みなおす』第二一卷（朝日新聞社） 平成七年
- 「共和演説事件一〇〇年」 『三色旗』第五九八号（慶應義塾大学通信教育部） 平成一〇年
- 「最初の全国的政党的成立と崩壊―自由党小史―」 『三色旗』第六〇四号（慶應義塾大学通信教育部） 平成一〇年
- 「国会開設運動」「自由党と立憲改進黨」 『日本近現代史研究事典』（東京堂出版） 平成一一年
- 「明治十年代の文部省と慶應義塾―私学冷遇政策の沿革―」 『福沢諭吉年鑑』二六（福沢諭吉協会） 平成一一年
- 「徳島慶應義塾と阿波自助社」 『歴史地名通信』四二（平凡社） 平成一二年
- 「自由民権運動」「民選議院設立建白書」「立志社」「愛国社」「飯田事件」ほか
- 『日本史事典』（朝倉書店） 平成一三年
- 『福沢諭吉書簡集』のなかの僧侶たち
- 『福沢手帖』第一一八号（福沢諭吉協会） 平成一五年
- 「明治自由党の研究」 『日本史文献事典』（弘文堂） 平成一五年
- 「福沢諭吉の政治論」 『三田評論』第一一〇六五号（慶應義塾） 平成一六年
- 「犬養毅と尾崎行雄―慶應義塾から政界へ―」 『三田評論』第一一〇七二号（慶應義塾） 平成一六年
- 「第一回衆議院議員選挙の当選者たち―福沢門下の政治家群像―」

「雪池忌」

「『近代日本研究』の過去と現在」

「密偵からみた初期交詢社」

「福沢諭吉の民権論」

「明治十五年——『時事新報』の創刊、早稲田の創立」

「福沢諭吉（一八三五——一九〇一）」

「福沢諭吉の近代化構想——天皇・議會・内閣・地方制度を中心に——」

『三田評論』第一〇七三号（慶應義塾）

『三色旗』第六八三号（慶應義塾大学通信教育部）

『福沢研究センター通信』第二号（慶應義塾）

『交詢雑誌』復刊四九四（交詢社）

『三色旗』第七〇九号（慶應義塾大学通信教育部）

『三田評論』第一一〇〇号（慶應義塾）

榎本隆充ほか編『榎本武揚』（藤原書店）

『福沢研究センター通信』第九号（慶應義塾）

平成一六年

平成一七年

平成一七年

平成一八年

平成一九年

平成一九年

平成二〇年

平成二〇年